

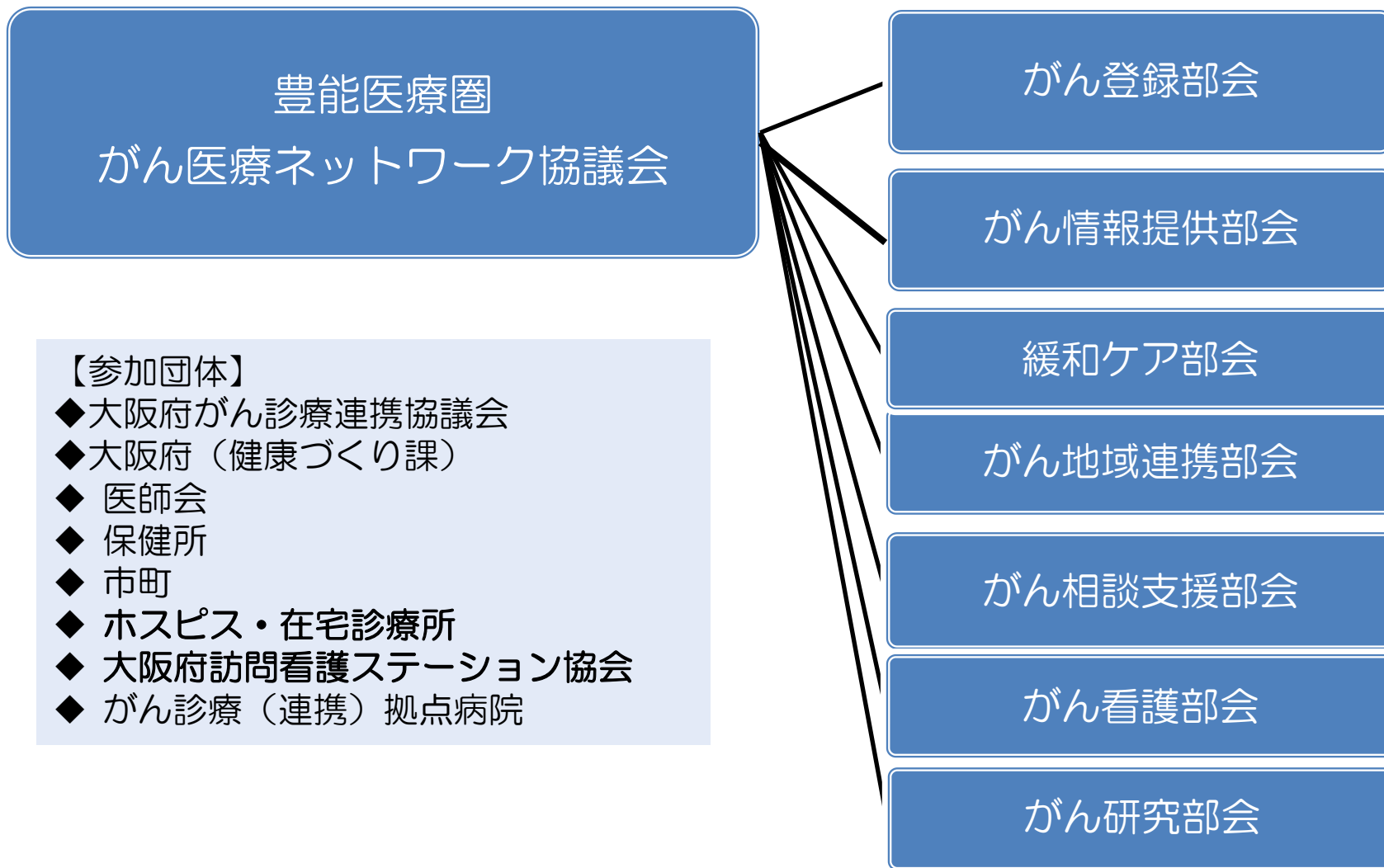


豊能医療圏 がん医療ネットワーク協議会 活動報告

〔令和8年（2026年）3月10日〕

市立豊中病院
大阪大学医学部附属病院

組織図



がん登録部会

- 豊能医療圏がん登録部会では、

2040年を見据えた豊能医療圏における将来人口推計
の資料を作成した。

また三島、北河内医療圏と合同で大阪大学医学部附属病院
統合診療棟の見学会を実施した。




緩和ケア部会

- 1) 地域連携リレーシートの普及と実践
改定版地域連携リレーシートを各施設で運用中

 - 2) 地域連携カンファレンス
 - ・今年度は同業務形態の施設でそれぞれテーマを決めて話し合った。
(在宅診療施設) 24時間オンコール体制維持、多職種協同の工夫、急性期病院やホスピスとの連携などについて意見交換を行った。

 - (急性期病院) 当医療圏の緩和ケア提供体制強化のために、各施設の現状や運営の工夫、課題などを共有した。

 - 3) 緩和ケア認定看護師のB課程認定看護師教育課程教育機関の設立を要望
(去年度から継続)

 - 4) 他医療圏の緩和ケア介入件数の多い施設にチーム運営状況について教授
いただく機会を要望
- 

がん地域連携部会

1. 遺伝子パネル検査啓蒙ポスター作成後のモニタリング

がんゲノム医療非連携病院からのパネル検査紹介数のポスター掲示前後の変化

- 阪大病院 昨年度70件 今年度推定70件
- 豊中病院 昨年度4件 今年度推定7件

- 年度末に実施予定とする医療従事者対象の認知度調査（2回目）の結果を前回実施分と比較

2. AYA患者がタイムリーに捕捉される仕組みの検討

- 各施設における妊孕性温存に関する情報提供の現状把握
豊能二次医療圏内7つのがん診療拠点病院（阪大を除く）の
がん登録データより「2024年1月1日～12月31日に発生
した16歳～39歳のがん患者」を抽出



がん地域連携部会

- ・以下の項目について調査（158名のデータが集積）

年齢・性別・パートナーの有無・子どもの有無

就労状況

がんの部位・がん治療の主診療科・治療開始施設

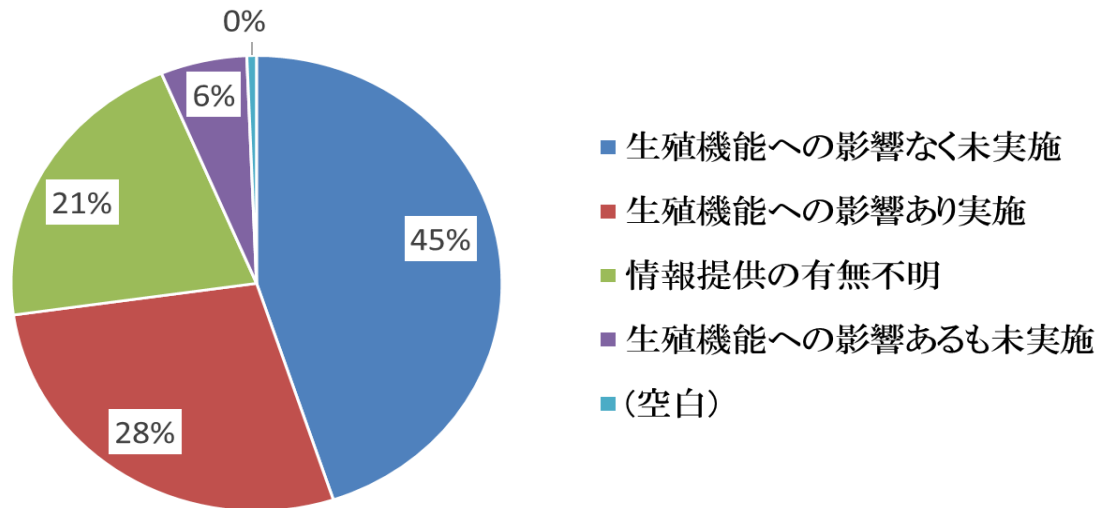
治療内容・薬物療法の場合のレジメン

妊孕性温存に関する情報提供の有無

妊孕性温存治療のための専門施設紹介の有無

実施された妊孕性温存治療

妊孕性温存に関する情報提供の実施状況



がん相談支援部会

療養・就労両立支援指導料の算定

- ・ 就労に関する相談件数 2025年度上半期で 8施設215件
→ 相談件数は多い
- ・ 療養・就労両立支援指導料の算定件数 2025年度上半期で1施設2件のみ

算定に至らない理由

- 通常診断書のみで対応可能（就労に関して雇用者側の理解が良い場合）
- 書類作成や手続きが煩雑（雇用側の理解不足）
- 病状の詳細を伝えたくない（患者と雇用者との関係性）
- そもそも算定の要件が厳しすぎると思われる

困難事例に対する相談対応の向上

WEB meeting を 2回実施 （事例検討 情報交換）

訪問診療医について各施設の情報をリスト化し共有（非公開）



がん看護部会

ELNEC-J研修：2025年12月20日（土）、21日（日）

開催当番：大阪刀根山医療センター

募集人数：50人（申込人数45人）、研修終了：38人

講師・ファシリテーター：18人

（次年度医療圏内および医療圏外に募集案内、大阪府がん看護協会で実施体制について検討の予定）

各施設研修の相互受入

各施設が年間計画で予定している研修の一覧を作成し配布、他施設からの参加を相互に受入れる → 今年度は、共通の評価指標（アンケート）を作成

合同研修の実施：2026年3月6日（金）

17：00～18：00 Web開催

テーマ：ACPに対する取り組み

（シンポジウム形式）

令和7年度研修

ACPの現状と課題

～みんなの施設ではどうしてる？～

ACPIについて考えよう

病棟ではACPの推進が重要視されており、診療報酬向上、入院基本料の算定要件としてガイドラインに基づく取り組みが求められています
本研修では、事例を通して他施設におけるACPの実践を共有します
この機会にぜひご参加ください

研修目的 他施設におけるACPの実践や課題を共有し、個人および自施設の現状を振り返ること、今後の取り組みにつなげる

開催日時	参加方法	参加費用
2026年3月6日（金） 17:30～18:30	ZOOMIによる オンライン研修	無料

対象者 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会
参加施設のがん看護に携わる看護師

申し込み

- 左記QRコードよりお申し込みください
- 申し込み締切：2月20日（金）

申込者は研修2日前までに研修資料メールアドレスへ研修のご案内をお送りします

主催
豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会 がん看護部会

がん研究部会（阪大病院単独）

(1) 小児がん対策

●小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、厚労省認定小児がん連携病院、大阪府認定府小児がん拠点病院である。小児がん拠点病院や大阪府内の小児がん診療施設と連携し、特に豊能・北摂地域の小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。難治性血液悪性腫瘍、固形腫瘍、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫などについては近隣はもちろん、大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科などと連携して治療にあたっている。

造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。また、2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性白血病の治療に取り組んでいる。

さらに、AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存などの生殖医療については、大阪大学生殖医療センターと連携し、綿密な説明のうえ必要性に応じて、卵巣凍結を含む医療提供を行っている。

小児科外来では、治療後の長期フォローアップ外来を設置している。一生を通じて質の高い生活を送ることができるように多診療科による医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種による支援を行っている。



(2)造血幹細胞移植の推進

●造血幹細胞移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間24件（2024年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁（骨髄、末梢血幹細胞）、骨髄バンク（骨髄、末梢血幹細胞）、臍帯血のすべてに対応しており、昨年は末梢血幹細胞を用いた移植が3/4となっていた。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2024年は37件施行している。

(3) がん研究の推進

●多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

●臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。



● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を厚生労働省より受け、令和5年3月に引き続き指定を受けた。（指定期間：令和9年3月31日まで）
- ・令和7年5月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国に32病院、うち大阪府下2病院）、及びがんゲノム医療連携病院（大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。
（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）
- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を実施した。（199例登録）
- ・令和元年9月中旬より保険診療下でのがん遺伝子パネル検査の受付を開始している。令和7年5月現在、固形腫瘍に対する検査は以下の5種類を実施している。
OncoGuide™ NCCオンコパネル システム、FoundationOne®CDx がんゲノムプロファイル、FoundationOne®Liquid CDx がんゲノムプロファイル、Guardant360®CDx がん遺伝子パネル、GenMineTOP®がんゲノムプロファイリングシステム 造血器腫瘍に対するへムサイト®は、令和7年3月に保険適用となり、6月より受付を開始している。
（令和元年:96件、令和2年:224件、令和3年:255件、令和4年:259件、令和5年：251件、令和6年：275件、令和7年：241件+へムサイト30件）
- ・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も共同医療機関として実施している。

- ・令和4年9月より、AMED全ゲノム研究（患者還元班）に参加し、難治がん・希少がんに対する全ゲノム解析研究を実施している。（令和4年度:100例登録、エキスパートパネル開催95例、令和5年度:99例登録、エキスパートパネル開催97例、令和6年度:140例登録、解析終了、令和7年度：110例の同意を取得した。）

(4) 先進医療の推進

- 以下の先進医療を現在実施中である（R8.1.1）

1. テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）
2. 術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）
3. 術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ-パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）（先進医療B）
4. アナモレリン塩酸塩経口投与 体重減少（食道がんに対する食道亜全摘胃管再建術又は胃がんに対する噴門側胃切除術若しくは胃全摘術を実施したものに限る。）

(5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（大学院）

110名（2024年度）

（薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など）